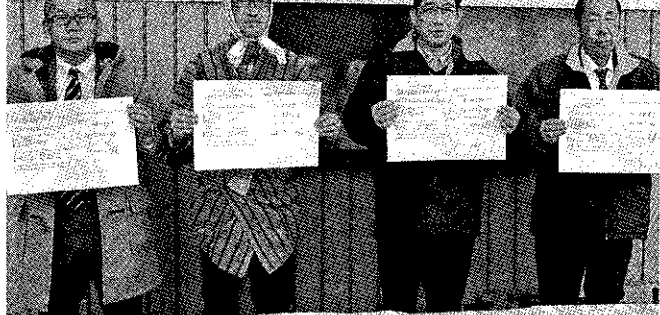


# 海洋ゴムが無償人的支援

## ふるさと企画舎とくき漬け生産協力協定

### 法人ふるさと企画舎・海洋ゴム株式会社 村活性化の取り組みに関する協定調印



農山村活性化協定を結ぶふるさと企画舎の田上至理事長と海洋ゴムの石原強常務ら(9日、紀北町便ノ山で)

紀北町のNPO法人「ふるさと企画舎(便ノ山)」と「海洋ゴム(中里、尾崎)」

史道社長)は9日、

「農山村活性化の取り組みに関する協定」を結んだ。同法人が生産するくき漬け材料のヤツガシラの農作業に同社が無償で協力する。

同社は昨年、社会貢献活動の一環でくき漬け作業に参加したこときっかけに、県が地域の農林漁業と企業の共生を進める「ふるさと応援カンパニー推進事業」に基づき、協定を結ぶことになった。同様の協定は県内12例



くき漬け原料のヤツガシラの種芋を掘り出す海洋ゴムの従業員(9日、紀北町便ノ山で)

目、紀北地区では初めてとなる。

この日は便ノ山の同法人くき漬け加工場で協定の調印式があり、田上理事長(55)は「くき漬け生産は大変手間が掛かる作業。人的支援はありがたい」と感謝し、同社の石原

農家が生産する特産品で、サトイモの一種のヤツガシラの茎から作る。同法人は休耕田を活用してヤツガシラの生産から漬け込み、出荷までを行っている。海洋ゴムは今後、種芋掘りや草刈り、収穫時期に社員を派遣して農作業に協力する。

この日も早速、社員16人と県職員8人が同所の畑(500平方メートル)で約2時間、種芋を掘り出し土を取り除いて保管する作業に取り組んだ。作業後は種芋を蒸して冬の味覚を味わった。

くき漬けは便ノ山の